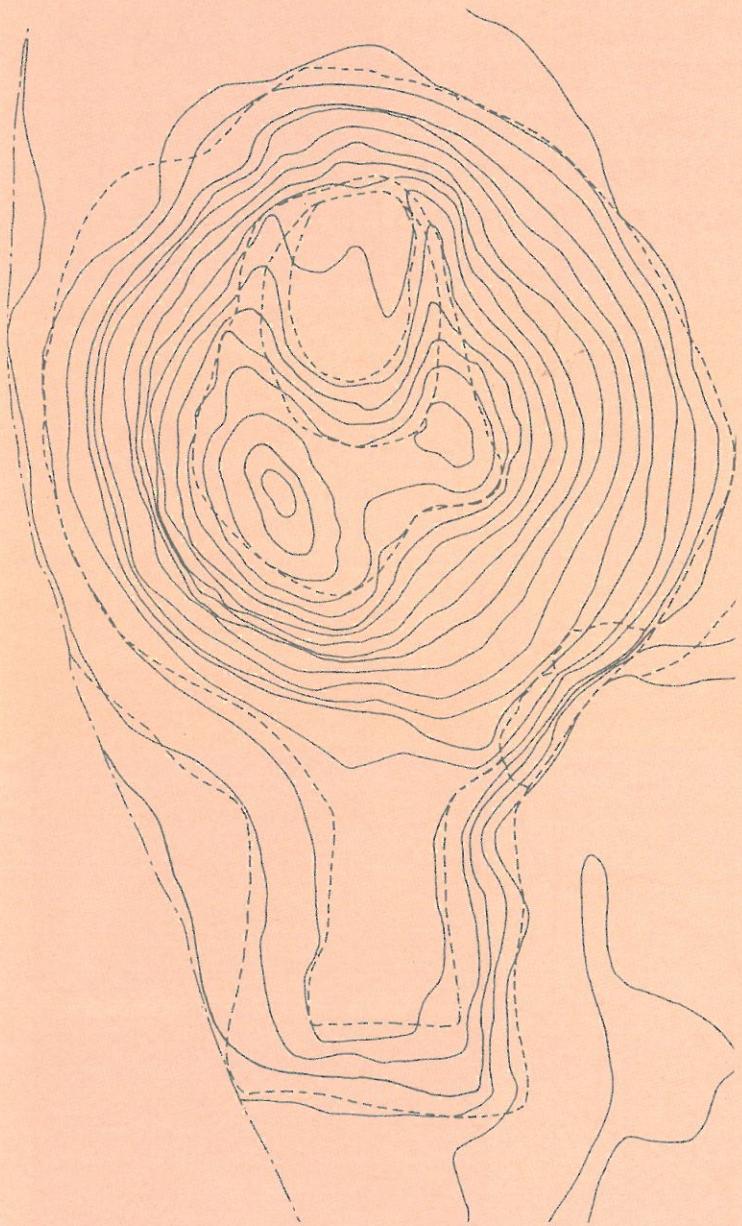


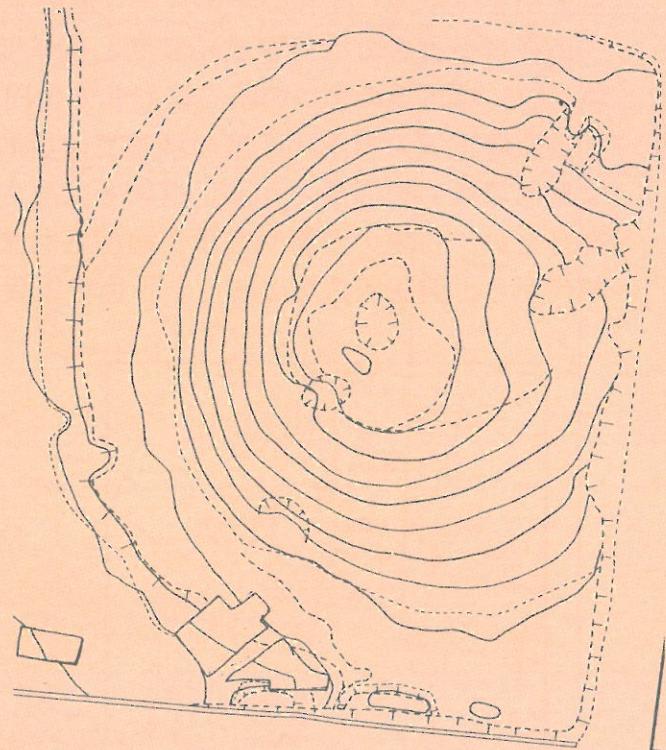
国指定史跡 曾根遺跡群

銭瓶塚古墳・ワレ塚古墳の調査

～形象埴輪をもつ帆立貝型前方後円墳～



WAREZUKA-TOMB



ZENIGAMEZUKA-TOMB

前原市教育委員会

国指定史跡 曾根遺跡群

そね いせき ぐん

～伊都国王とその末裔たちの眠る場所～

国指定史跡曾根遺跡群の位置する丘陵上には、5基の古墳〔狐塚古墳（円墳・5世紀前葉）、^{きつねづか}銭瓶塚古墳（前方後円墳・5世紀中葉）、ワレ塚古墳（前方後円墳・5世紀後葉）、先山古墳（消滅）、^{さきやま}高上大塚古墳（消滅）〕と、弥生時代の伊都国王墓とされる平原遺跡があり、糸島地方の歴史を考えるうえで大変重要な遺跡が密集する地域です。

この丘陵には、現在のところ同じ時期の集落が見られないことから、2世紀から5世紀にかけて、この地域を治めた首長墓のみが存在する特別な空間であったと考えられます。これらの遺跡の重要性をふまえ、昭和57年10月、4遺跡すべてが曾根遺跡群として国指定史跡に指定されました。

市教育委員会では、平成15年度と16年度にかけて、古墳の形態の確認を主目的として、銭瓶塚古墳、ワレ塚古墳の2つの帆立貝形前方後円墳について発掘調査を行いました。

銭瓶塚古墳の平成15年度の調査では盾形に巡る周壕の形態が明らかになったほか、その周壕からは形象埴輪や岩偶など珍しい遺物も発見されました。ワレ塚古墳は平成16年度に、初めて発掘調査を行ない、古墳の形態や規模が確認されました。また、壇身、器台、ハソウなどの様々な須恵器の年代から、銭瓶塚古墳に続く、5世紀後葉頃に築造した古墳であることが明らかになりました。



糸島の主要前方後円墳

1. 一貴山銚子塚古墳
2. 東二塚古墳
3. 井田原開古墳
4. 津和崎権現古墳
5. 御道具山古墳
6. 泊大塚古墳
7. 元岡E-1号墳
8. 池ノ浦古墳
9. 元岡石ヶ原古墳
10. 桑原金屎古墳
11. 塩除古墳
12. 長嶽山1号墳
13. 本林崎古墳
14. 砂魚塚古墳
15. 井原1号墳
16. 西堂古賀崎古墳
17. 築山古墳
18. 端山古墳
19. 飯氏二塚古墳
20. 兜塚古墳
21. 丸隈山古墳
22. 若八幡宮古墳
23. 今宿大塚古墳
24. 谷上古墳
25. 鋤崎古墳

錢瓶塚 古墳

錢瓶塚古墳は、以前、墳頂部から家形埴輪が見つかっていることから、形象埴輪をもつ古墳であることが知られていました。平成15年度の調査でも、円筒埴輪、朝顔形埴輪のほかに、形象埴輪片や岩偶などが出土しました。岩偶は、古墳から出土することは大変珍しいものです。クビレ近くの周壕から出土しており、歯をむき出し相手を威嚇する表情から、古墳を守る「魔よけ」のような意味のものであった可能性があります。古墳の形態は、全長50m(後円部径約37m、前方部長約13m)、盾形の周壕を巡らす、帆立貝型前方後円墳であることが確認されました。

5世紀中葉



クビレ部出土岩偶

見開いた口に、むき出した歯。古墳を守るために「魔よけ」の意味で作られたと考えられ、埴輪と同じように、古墳にたてられていたものと思われます。現存で長さ10cm、幅4.8cmの結晶片岩製。

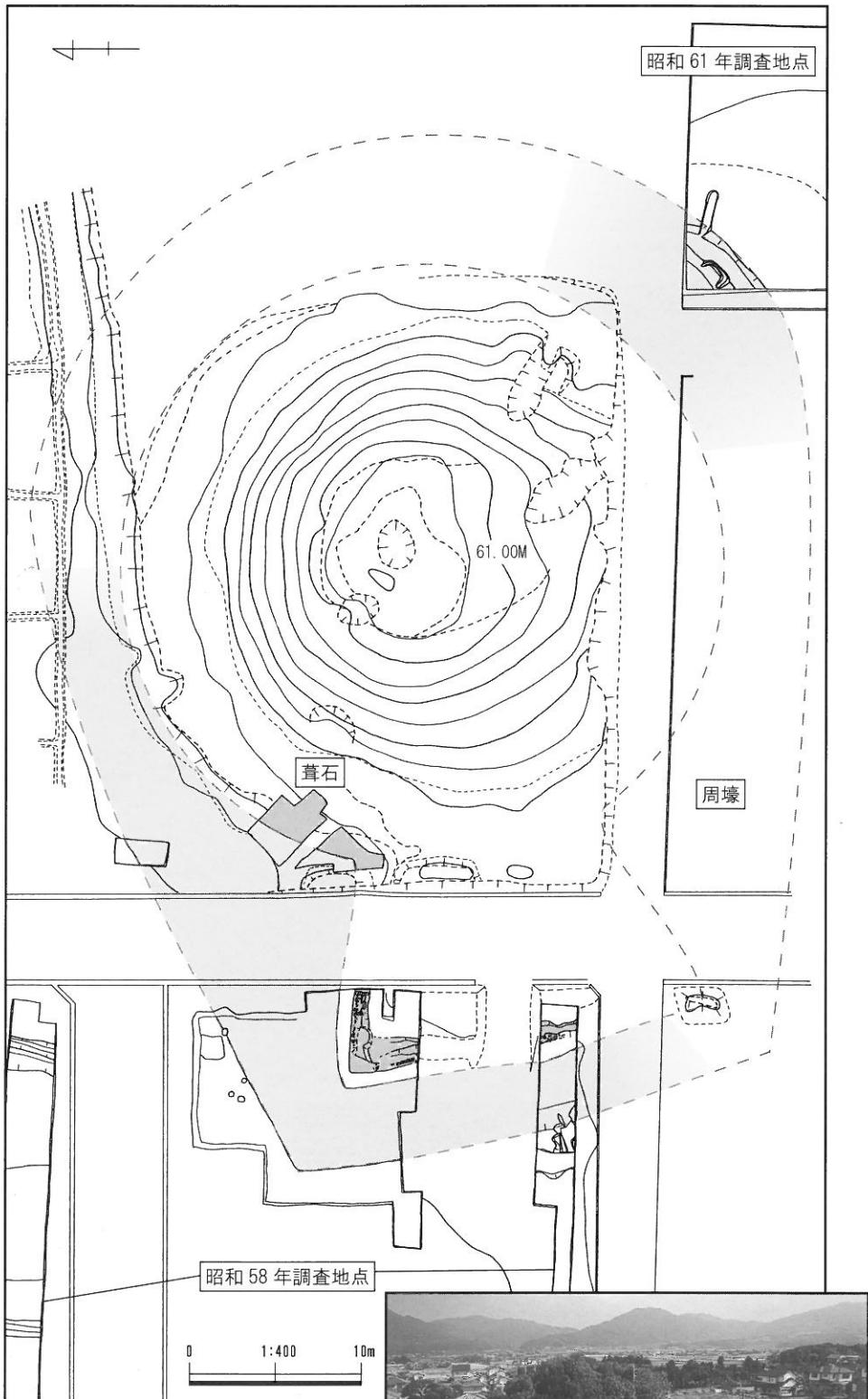
クビレ部（南側より）

周壕内に落ち込んだ埴輪片が多く出土しました。



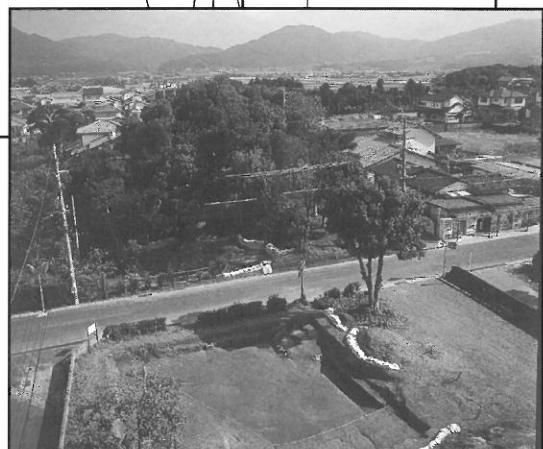
クビレ部（真上より）

クビレ部周辺から、円筒埴輪・朝顔形埴輪、形象埴輪が出土しました。とくに円筒埴輪と朝顔形埴輪の出土量が多く、一段目テラスに密に並んでいたものと推定されます。



周壕部分と前方部（西より）

黒く見える部分が周壕部分です。周壕の幅は5.5m、深さ60cmあり、盾形に巡るものと確認されました。



ワレ塚古墳

平成16年度の調査の結果、墳丘部の全長42m（後円部径30m、前方部長12m）の帆立貝型前方後円墳であることが分かりました。前方部では、短い間隔で円筒埴輪が並び、周壕からは馬形の形象埴輪片が出土しました。このように、墓前祭祀の様子がわかる資料は県内でも少なく、近畿のヤマト政権から広がったとされる埴輪を用いた祭式の受容を考える上で、重要な資料となりました。

また、古墳の周囲を巡ると考えられていた周壕は、前方部で一部途切れており、6世紀見られる周壕を持たない古墳形態への過渡期を示すものと考えられます。

5世紀後葉

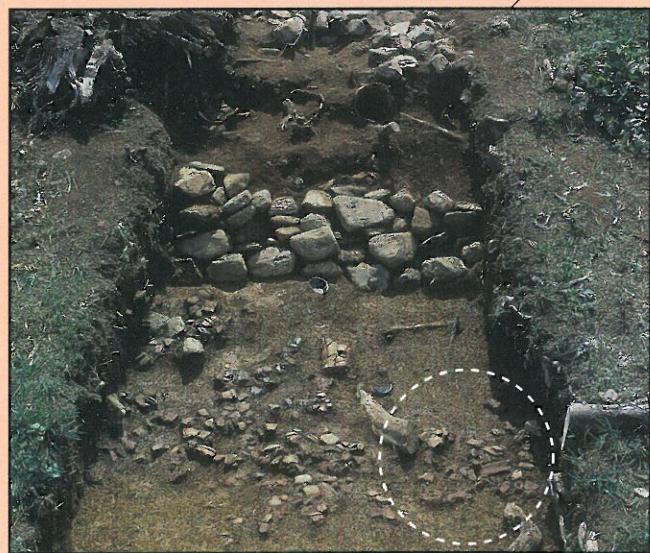
クビレ部（南側より）

根石には大きい石を据え、その上に小さめの石を積み上げていった様子がわかります。葺石上、一段目テラスには、円筒埴輪が並んでいます。このトレンチからも、形象埴輪片が出土しています。



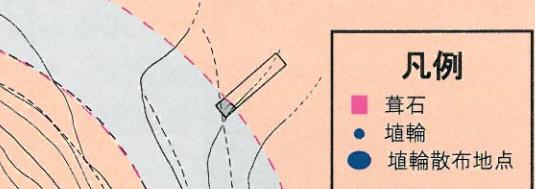
前方部東側（北から）

据部出土の埴輪片の中には、形象埴輪が含まれていました。



前方部（北側より）

墳丘側から落ち込んできた須恵器や、円筒埴輪、朝顔埴輪、動物形形象埴輪など重なるように出土した地点です。葺石の残りも良く、二段築成であることが確認できました。点線の部分は、馬形埴輪が出土した地点です。



後円部（西側より）

埴輪を並べた痕跡があることからある時点で抜きとられたと考えられます。

前方部に比べ後円部では、埴輪の出土が少ない傾向がありました。



クビレ部（南側より）

カクランにより葺石はほとんど崩落していましたが、円筒埴輪列が良好な状態で残っていました。

埴輪から馬形埴輪の脚部のほか、多くの須恵器が出土し、前方部の墳丘上で祭祀を行っていたものと考えられます。